

南のひと 29

写真・文＝水野暁子

八重山で共に暮らす島人を撮影したシリーズ。
暮らしの中から見つめる被写体に共感と敬意を
込めて撮影している。



竹富島出身の前本とわさんを初めて撮影したのは、彼女が赤ちゃんの頃だった。とわさんのお祖父さんにだっこをされているところを撮影したのが最初だったと思う。今から約20年ほど前のこと。

とわさんが小さかった頃は、あまり他の子どもたちと遊んでいる姿を見かけなかった。一人で遊んでいる姿は寂しそうでも無く、とても自然に見えた。

彼女の家の隣りには御嶽があり、大きなガジュマルの木が生えている。以前私が暮らしていた家が、この御嶽の近くだったこともあり、とわさんがこの場所で遊んでいる姿を良く見かけた。

あるいは、夫の店で店番をしていると、音も無くひょこりと現れ、気づくといつの間にかふわりと居なくなったりしていた。不思議な空気感をまとったとわさんを写真に写したくて、何度かカメラを向けたけれどいつもフレームに収まる前にすりと走りさっていった。

私の持つ彼女のイメージは、木の妖精とか、キジムナーとかそんな感じだった。

一枚目の写真は、彼女が小学一年生の頃に学校からの帰り道に撮影した一枚。二枚目の写真は、彼女が高校を卒業して八重山から離れて行く前に撮影した一枚。

現在東京で暮らすとわさんを想う時、「彼女には今、何が見えているのかな？」と考える。東京の雑多な人混みの中、あの空気感をまとったとわさんが静かにこちらを見ている姿が目に見えなくなる。

水野暁子 みずのあきこ
1973年千葉県に生まれる。1986年に家族とアメリカへ渡る。1996年 School of Visual Arts (New York) を卒業。1999年に竹富島に移住。現在子育てをしながら撮影活動中。

●島人へのインタビューをまとめて紹介しているYouTubeチャンネル「八重山ライブラリー」も。